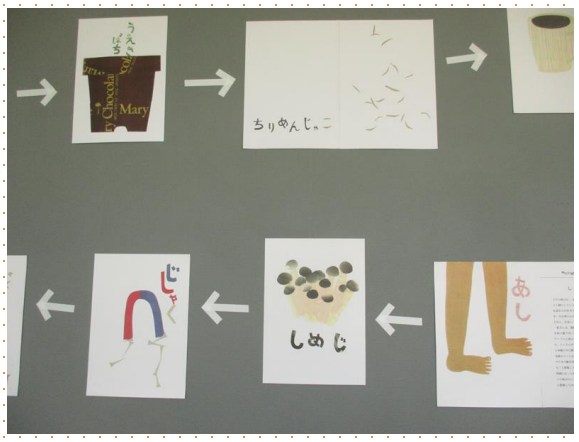
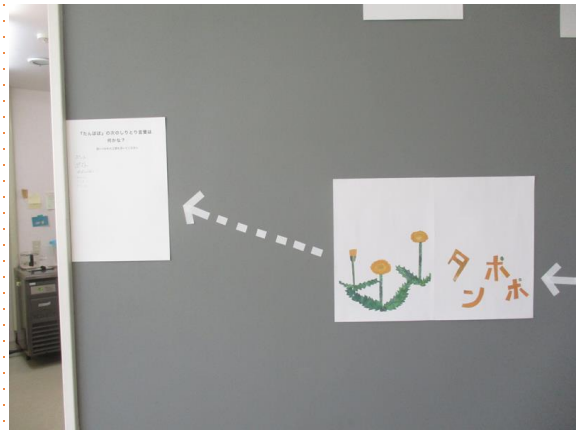
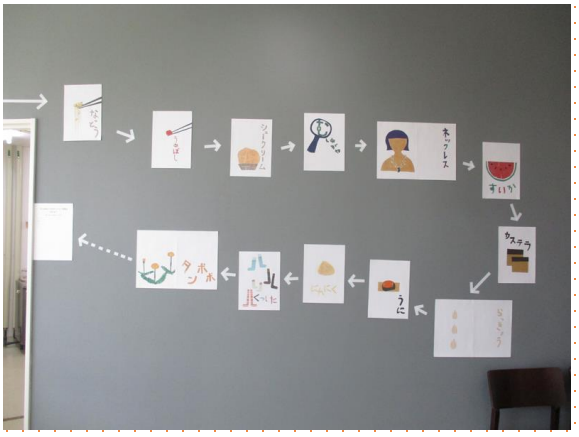
<2月のギャラリー展示>

『しりとりえほん』

２月の展示は、一恵さんという人の『しりとりえほん』から、２１個のしりとりの展示です。一恵さんは、子供の頃に本を読むのが好きだったそうです。ノートに切り紙を貼るとき、次は何のかたちを切ろうかなと考えるうち「しりとりえほん」を思いついたと話してくれました。
一恵さんは、開院のときに小児病棟のニッチの飾りの文字を切り紙で作ってくれたり、イナホ喫茶やレストランのテーブルに置かれた小さな紙の花を作ってくれました。また、ニッチのギフトとして全部手貼りの「しりとりえほん」も仲間と共に贈ってくれました。その小さなしりとりの本は、最後のメージは空白です。病院に居るこども達が、たとえハサミをで紙を切らなくても、心の中で次のしりとりはなにかな？と想像してもらえたら、その一瞬が病気のことを忘れる時間になってほしいと、一恵さんの想いからです。
この展示のしりとりの最後の「たんぽぽ」の次はなにかな？と想像してみてくださいね。